

4月16日 早寝早起き朝ごはん運動文部科学大臣表彰 地域でいきいき 生活リズム週間



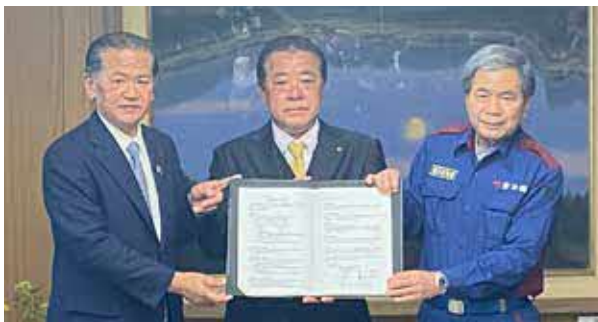
早寝早起き朝ごはん運動文部科学大臣表彰伝達式が八代市公民館で行われ、北岡博教育長から第八中学校の山口敬介校長へ表彰状が手渡されました。山口校長は「地域と連携して始めた活動なので、今後も地域全体で推進し、活動のさらなる充実と周知啓発に努めていきます」と話しました。

4月4日 ゴリパラ日奈久フェスオンライン 八代の認知度向上に向けて



八代市よかとこ大使のゴリけんさんの出演番組「ゴリパラ見聞録」の有料オンラインイベントが開催され、約1万人が視聴しました。日奈久からの中継やスタジオでの竹輪のPRなど約3時間の内容で、視聴者からは「八代へ行ってみたい」という声が寄せられました。

4月16日 亀万運送との企業立地協定 物流や産業の活性化に期待が高まる



企業立地協定調印式が県庁で行われ、株式会社亀万運送の富田康方代表取締役と蒲島郁夫県知事、中村博生八代市長が出席しました。協定締結により、低温倉庫と荷さばき施設を八代外港工業用地に新設します。投資額は約10億円で、地元から新たに5人を雇用する予定です。

4月16日 JICA海外協力隊員が坂本町で活動 坂本町の復旧・復興を後押し



4月8日～7月7日の3カ月間、坂本町の地域おこしに取り組む阪本竜也さんと原千津香さんが中村博生市長を表敬訪問しました。2人は海外協力隊として派遣予定でしたが渡航が延期になったことから、派遣前の事前訓練として坂本町の復旧・復興、地域おこしに取り組みます。

4月24日 北新地海岸のアサリ潮干狩りが解禁 豪雨被害からのアサリの復活



鏡町北新地海岸一帯でアサリの潮干狩りが解禁されました。地元の高齢者や家族連れなど約1,000人が4カ所の養殖場に分かれ、アサリ採りを楽しみました。中川えれなさん(文政小2年)は「採れたアサリをみそ汁で食べたい」と笑顔で話しました。

4月20日 「八代不知火蔵 白水」が優等賞受賞 市内外に八代の魅力を発信したい



令和3年熊本国税局酒類鑑評会がくまもと森都心プラザで開催され、メルシャン株式会社が製造する本格焼酎「八代不知火蔵 白水」が優等賞を受賞しました。同社は地域貢献の一環として、地元八代が誇る八代妙見祭を盛り上げようと6月から八代妙見祭ラベルの白水を製造・販売します。



Twitter



Facebook



市ホームページ

4月26日 八代産冬トマトの高級食パン、晩白柚のクラフトビール完成報告

トマト、バジル、チーズの味がマッチした逸品



株式会社熊本菓房の布井治之代表取締役と宮島農園の宮島真一さんが中村博生市長に八代産冬トマトを100%使用した高級食パンの完成を報告をしました。これは宮島農園自家製のトマトピューレとチーズ、バジルを練りこんだ食パンで、トマトの濃厚な味わいとさわやかな酸味を楽しめます。

上品な香りと爽やかな甘さが口に広がる



株式会社KAM Brewingの田上晃子代表取締役とAMAKUSA SONAR BEER合同会社の荒木信也代表社員が中村博生市長に晩白柚を使用したクラフトビールの完成を報告しました。このビールは晩白柚の爽やかな甘さとフルーティーな味わいでビールが苦手な人でも飲みやすい仕上がりになっています。

5月7日 カーネーションのプレゼント

花の香りを楽しんで



母の日を前に、地域おこしグループTeam I♡日奈久が妙見町のとら太の会を訪れ、子どもたちに約2,000輪のカーネーションをプレゼントしました。

子どもたちは早速、カーネーションを手の平いっぱい取ってプールに浮かべ、特設のカーネーションプールを楽しみました。

4月26日 人権の花運動種子伝達式

花とともに思いやりの気持ちを育む



日奈久小学校で人権の花運動種子伝達式が行われ、八代人権擁護委員協議会の吉田和人会長が、本田月人さん(6年)に花の種やプランター、肥料などの目録を贈りました。これは、子どもたちに花を育てることをとおして、生命の尊さや思いやりの心を育んでもらおうと毎年行われているものです。

5月12日 18市町村と日本郵便が包括的連携協定

安心して暮らせるまちづくりへ



県南18市町村と日本郵便株式会社との包括的連携協定の締結式が、八代市と人吉市の2会場を中継して行われました。本協定はそれぞれの人的・物的資源を活用し、災害時の相互協力や関係人口・交流人口の創出を図るとともに地域活性化につなげることを目的に締結されました。

5月11日 防災用頭巾付きライフジャケットの贈呈

子どもたちの命を守るために



八代球磨川ライオンズクラブが、八代広域行政事務組合に子ども用の防災用頭巾付きライフジャケット幼児用40着と小学生用40着の計80着を寄贈しました。同クラブの小川しのぶ会長は「災害時だけでなく、子どもの水難事故も毎年発生しているので、訓練などにも活用してほしい」と話しました。